

全ては子どもたちのために

壁面に掲示してご活用ください

共に歩まん



令和4年1月12日発行
第22号

長野県中信教育事務所

←過去の「共に歩まん」はこちら

シリーズ「指導と評価の一体化」道徳科編 成長を受け止め認め励ます評価

道徳科の評価は、他教科と大きく異なります。ポイントは👉

「教師はねらいを設定して授業に臨みますが、そのねらいをゴールとして児童生徒の評価は行いません」 “ねらいに対しての評価はできない”のが他教科とのちがい！

ねらい： 道徳的価値の理解を基に
道徳性を養うこと

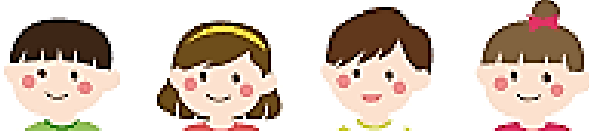
道徳性とは、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲、道徳的態度

道徳科における評価は、成長を受け止めて認め、励ます個人内評価

- * 内面的資質である道徳性が養われたか否かは判断できません
- * 道徳的価値を理解したかなどの基準を設定することはふさわしくありません

評価するのは授業での学びの姿
(学習状況や道徳性に係る成長の様子)

子どもにとってのいちばんの評価は、信頼している先生に認められることだね！



評価の視点は2つ

評価の視点① 一面的な見方から**多面的・多角的**な見方へと発展させているかどうか

- 道徳的価値のよさや大切さについて考えようとしている
- 道徳的価値について、一つの見方からではなく様々な角度から捉えて考えようとしている など

特別の教科 道徳『アシスト+』も参考になります



評価の視点② 道徳的価値の理解を**自分自身との関わり**の中で深めているかどうか

- 道徳的価値について、自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考えようとしている
- 学んだ道徳的価値のよさを感じ、自分の生き方に生かそうとしている など

令和3年度道徳教育推進研修 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見哲也氏講義資料抜粋



1単位時間だけでその成長を見取ることは困難です。
一定の期間を経て見えてくる成長の過程を評価します。

指導要録や通知票は、授業の中で褒めて認めていたことの褒め直しです。